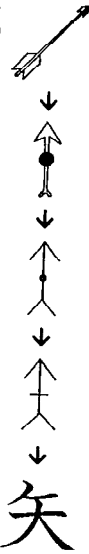


矢

二年 画数 5
筆順 一ニ 矢
クシ 矢

成り立ち



弓のつる(弦)につがえてとばすものを「矢」といいます。矢のかたちをあらわした字です。
むかしは、矢よりもはやくとぶものはありませんでしたから、はやいことを「矢のようだ」といいました。いまだったら「ロケットのようだ」というところですね。

使い方

▽むかしの子供たちは、木や竹で作った弓矢を持ってあそびまわったものでした。もちろん、その矢はあまりよく飛びませんでした。それでもけっこう楽しかったものです。

▽人は、ときには、失敗したり、不運だったりして、非難の矢面に立たされることがあるものです。その非難は、正しい時もあるでしょうし、不当なものもあるでしょう。正当な非難には、悪びれずにあやまるほかありません。不当な非難をあびせかけられたら、きちんと、自分の立場を説明しましょう。

熟語例

▽弓矢(弓と矢)。また、武器や武道の代表として、つかわれます。たとえば「弓矢の道にいそしむ」といえば、武道にはげむという意味で、つかわれます。

▽矢面(矢の飛んでくる正面、という意味で、そこから、非難攻撃を直接うける、という意味にも、つかわれます)。

▽矢継ぎ早(次から次へと矢を継ぎかえて射るように、何かを素早くやること)。

姉

二年 画数 8
筆順 一ニ 姉
クシ 姉

成り立ち



「始(はじめ)」と同じ音なので、その意味をかりた「市」と、「女」の意味の「女」とを組み合わせて作った字です。

「始めの女の子」という意味の字で、「先に生まれた女の子」である「あね」を表した字です。

また、「兄」と同じように、あい手をうやまって言うのに使われます。【例】諸兄姉、貴姉。

「姉さん」は、もとは「あねさん」と言いましたが、今では「あ」がはぶかれて、「ねえさん」と言います。また、「兄さん」も「あにさん」でしたが、今ではやはり「にいさん」といいます。

使い方

▽わたしも姉もあわてものなので「あわてもの姉妹」とよくいわれます。

▽〇〇市と××市は、姉妹都市の約束を結びました。

▽ぼくには姉が三人もいます。長姉はぼくより十さいも年上です。

熟語例

▽姉妹(姉と妹)。また、同じなかまの二つのものという意味にもつかいます。

▽長姉(一番年上の姉)。

▽義姉(義理の姉。兄の妻や、配偶者の姉などをいいます)。

▽姉婿(姉の夫)。

▽諸兄姉(複数の男性と女性に呼びかける時につかう言葉。「みなさん」という意味で、つかいます)。

▽貴姉(相手の女性を、うやまって呼ぶ時につかう言葉。手紙などで、「貴姉のご健康を祈ります」などといえます)。